

令和7年度第1回図書館利用者懇談会記録

名称	令和7年度第1回 図書館利用者懇談会
日時	令和7年11月8日(土) 午前9時30分から11時30分まで
会場	八雲中央図書館 会議室
出席者	41人(内訳 利用者 25人、図書館16人) 八雲中央図書館長、庶務係長、事業計画係長兼大橋図書館長兼緑が丘図書館長、企画調整担当係長兼目黒区民センター図書館長、資料係長兼守屋図書館長、サービス係長兼目黒本町図書館長兼洗足図書館長、貸出・予約係長兼中目黒駅前図書館長、事務局(庶務係)、バックヤードツアー担当
懇談会次第	1 開会 2 八雲中央図書館バックヤードツアー 3 バックヤードツアーについての感想と意見交換 4 閉会
配付資料	1 目黒区立八雲中央図書館バックヤードツアー 2 アンケート

主要な発言

1 開会

2 八雲中央図書館バックヤードツアー

3 バックヤードツアーについての感想と意見交換

図書館：この後、利用者懇談会という形で、ご覧いただいたバックヤードツアーの感想等をうかがっていきたいと思います。

(図書館出席者紹介)

図書館：職員から様々な資料や装備等のご説明をさせていただきましたが、ご覧になった感想をぜひお聞かせください。ご説明した中でさらに聞いてみたいことがありましたら、遠慮なくお子様も含めて挙手をお願いします。最初に、どこの図書館をご利用になっているかを教えていただければと思います。

参加者：普段は洗足図書館と八雲中央図書館を利用しています。日々、本と格闘されて、装備等をされている方も本の細部まで観察して、本全体をきちんと楽しめるようにしたいと思われている気持ちが伝わってきました。図書館で借りる本を大切にしなければと思いますが、日々裏で本当に多くの方の細かな作業の積み重ねで、毎日快適に図書館を利用できているのかなど、非常に興味深かったです。個人的には、古くからの地図を並べていただいて、目黒の街の変遷の様子がよくわかって、非常に楽しかったです。

図書館：古い資料については、もちろん図書館としてはとても大事にしておりますし、日々入ってくる新しい図書、また電子書籍も入ってきています。地図も街も図書館も色々なあり方が出てくるのかなど思っております。他にもご意見あればいただきたいと思います。

参加者：今日家族4人で来館し、普段は大橋図書館を利用することが多いです。子ども達も

とても本が好きで、普段、なかなか見ることのできないバックヤードで、やはり改めて歴史を感じるといふか、人の英知の積み重ねがこういうふうになってることを改めて思い起こしながら聞いておりました。

見学中、他区の名前のついたラックやケースに、いくつか本が載っていました。他区の図書館との連携、大学や国や専門の図書館等は少し分類の仕方が違うというお話もあったので、他の図書館との連携や広がり等について、教えてください。

図書館：まず他区との連携についてですが、都内の公立図書館同士で協定を結んでいます。都立中央図書館が中心となって年に何回か連絡会を開催しています。また、お互いに持っていない資料を貸し借りするような仕組みがあります。区民の方からリクエストがあったときに、新刊で購入するもの以外に、購入できないものについては都内の図書館にあれば、取り寄せて、貸し出したり館内で閲覧していただいたりすることもできます。そのための資料がラックに置いてあったものです。都立中央図書館は直接行っても利用者の方に貸出していませんが、目黒区の図書館を通じれば貸出できるものもあります。そういった形で、区や都立図書館と協力関係を作っています。

さらに、病院の図書室や、他機関との連携もあります。公共図書館では持っていない専門的な本は、病院が持っている場合や、専門図書館とあって、ある特定の分野についての本をたくさん集めている図書館が所蔵している場合もあります。例えば食べ物についての本の図書館、飛行機や航空貨物等の運輸関係の本ばかりを集めた専門の図書館等、東京に限らずたくさんあります。

目黒区の図書館にはなさそうな特殊なものについても、目黒区の図書館にご相談いただければ、色々やり取りをして、他のところから取り寄せます。取り寄せできない場合は、紹介状を書いて直接行っていただく等、何かしら情報にたどり着けるように、お手伝いをさせていただきます。

漠然としていて、あるかないかわからないというようなものについても、とりあえず入口として、目黒区立図書館の各館の資料相談窓口にご相談いただければ、何らかの手段をとって、存在するものであれば、情報が届くようにこちらの方で手を尽くします。まずはご相談をいただければと思います。ただ、目黒区立図書館で他の自治体から本を取り寄せできるのは目黒区民の方のみです。例えば世田谷区にお住まいの方は世田谷区立図書館に、それぞれ住民票を登録しておられる自治体の図書館の方にご連絡いただければ、図書館同士のネットワークを活用して資料をご用意できますので、ご相談ください。

図書館：広がりのある質問ありがとうございました。本当に図書館の職員もブラッシュアップしながら、皆さまの興味関心があるところに携わっていけるように努力をしておりますので、是非ご相談いただければと思います。

参加者：家族3人で参加をしています。子どもが生まれてからずっと目黒区で、小さい頃からたくさん使わせていただいています。八雲中央図書館と、区民センター図書館の近くに住んでいるので、主にそちらを利用しております。

今回は皆さんの質問の回答もそうですが、利用者の知識や興味へのアクセスをサポートしてくださるモチベーションが、とても皆さん高く保っていらっしゃることに感動しています。

今日のバックヤードツアーの質問と少し外れてしまうかもしれませんが、区民センター図書館と八雲中央図書館で、キッズスペース、子どもがどんどん少なくなっている中で、子ども向けの本のスペースが緩やかだけれどもしっかりと区切られています。子どもたちが本に囲まれて安心して過ごせるスペースを提供していただいていることに日々安心しながら使わせていただいております。区民センター図書館の改修計画が二転三転しどうなるか、これからまだ希望が通ると信じて引き続き、自分の子どもが大きくなって利用する機会が少なくなったとしても、今後も子どもたちのためのスペースをキープしておいていただきたいという希望をお伝えしたくお時間をいただきました。ありがとうございました。

図書館：お子さんのことについて、補足をさせていただきます。小さいお子さんで、字が読めないお子さんには、基本的には大人が読んであげないと内容を知ることができません。誰かが読んで、その音と絵を結びつけることによって初めて読書ができます。子どものコーナーでは、声に出して読み聞かせをする事ができます。本を読んで聞かせるということ的前提に作られています。子どもにとって読書は、読み聞かせにより、音を聞いて絵を見るところから始まります。色々読書の形もありますが、最初のうちは皆さん読み聞かせから始まり、その内、自分で本を読めるようになっていきます。その次のステップは、絵を見ながら自分で覚えて、音を喋りながら1人で本を読むという段階を経て、黙ったまま本を読むという黙読の段階になります。図書館としては、年齢に関わらず、どのような発達段階でも読書は読書というような形で、皆さんになるべく、本を読んでもらうよう、色々取り組んでまいります。

図書館：今、子どものスペースのご要望をいただきましたけれども、感想だけではなくて、日頃ご利用されているの何か図書館へのご要望やご意見をお聞かせください。

参加者：いつも、洗足図書館を利用しております。まだ子どもは小学校一年生ですが、こういう働き方の様子を見て、自分の将来について少しずつでも考える機会を親としては作ってあげたいと思っております。もし図書館で働きたいとなった場合、司書の資格を取ったから働けるわけではないと思いますが、どうしたら図書館で働けるのか教えてください。

図書館：私は、大学で司書の資格を取り、公務員試験を受けて、目黒区の職員になり、運よく図書館に配属されました。図書館員になるためにいくつか道筋があり、公務員になって図書館に配属されることは、今、かなり厳しく、採用される人数が少なくなっています。目黒区の図書館は、区の職員と、業務委託という形で民間会社の人が働いています。本の装備や、貸出返却カウンターのスタッフは業務委託の会社に所属している方が、目黒区の図書館で働いています。その会社に入るには様々な形があり、正社員やパート等、会社毎に考え方も違います。そこで司書や司書に限らず読書に関する色々な資格を持っている人や、特に資格はなく働いている人等、様々な働き方があります。

図書館で働くことを目指すには、いくつか道があります。区立図書館、都立中央図書館、国立国会図書館や、大学図書館など、図書館といっても、色々な種類の図書館があるので、どういう図書館で働きたいのかによって、就職方法も変わってきます。色々な図書館があるのを見ていただいた上で、図書館で働きたいと思われたらとても嬉しいので、そういうことも図書館の職員に聞いていただければと思います。

図書館：目黒区立図書館では、自分たちの将来を考える学校のプログラムの一つとして、区

立中学校等の生徒さんたちを数日間受け入れ、図書館で職場体験をしていただくことも行っています。10月に大人の職場体験、「図書館職員1日体験」等のイベントも実施しており、随時、図書館のウェブサイトや区報の方で各種イベントをご案内しております。また機会がありましたらご利用ください。

図書館：次に図書館からのお知らせとして、事業をいくつかご紹介させていただきます。

今年の3月15日に、区報で「図書館の本の一生」という特集を組みました。皆さんが本を手にする場合は、本屋さんと図書館がメインですが、書店の場合、本の流れは、入口となる仕入れをして、売れば出口になるわけですから本屋さんとしては仕入れから販売の間が書店における本の一生涯になります。図書館の場合は本を受け入れるときに、まず普通の本を図書館の本にするという入口の作業が必要です。それが先ほど見ていただいた装備や、受け入れです。その後、図書館の本となって貸出・返却を繰り返していく、それが図書館の本の流れになります。

先ほどご覧いただいた保存庫は割と古い本が多かったと思いますが、図書館での貸出がある程度落ち着いたものが保存庫に入ります。図書館は毎日200冊から300冊の本を購入しています。新しい本は貸し出しされて図書館の中に残りませんが、ある程度経つと、だんだん動きが少なくなって図書館に溜まってきます。結果として、本が棚からあふれてしまうので、各館から八雲中央図書館に本を送ってもらいます。八雲中央図書館で、その中で保存庫にしまうものと、リサイクルに出すものを分けます。「ご自由にお持ちください」というコーナーが各図書館の入口のところにあり、皆さんにリサイクル本をお配りするというのもしています。状態が悪いものについては廃棄しています。その場合は、表紙はビニールでコーティングをしたフィルムを貼ってあるので燃やさないごみです。本の中身は古紙回収なので、一回ばらして、古紙と燃やさないごみに分けてそれぞれ処分しています。

区報大特集「図書館の本の一生」は、本屋さんとは違って、かなり複雑な工程を経ますので、もし興味があれば、ご覧ください。もしお手元に現物がなくても、この内容は目黒区のウェブサイトにも載せてあります。区報原本は、外のご自由にお持ちくださいのところに置いてありますので、よろしければお持ちください。

図書館：次にご紹介するのは、目黒の図書館で開設している電子図書館で、電子書籍をお読みいただけます。利用に際しては、目黒区にお住まいであること、さらに目黒区立図書館の貸出券をお持ちであることが必要になります。電子図書館の使用方法は、図書館ウェブサイトのトップページから、電子図書館の入口となるリンクがありますので、そこをクリックすると、IDとパスワードを聞かれます。皆さん、パソコンやスマートフォンで本の検索や予約をされると思いますが、IDは貸出券番号、パスワードはご自分で設定されたもので、電子図書館も共通して使えます。電子図書館の貸出点数は2点まで、貸出期間は2週間です。一般図書の返却は図書館に直接お返しいただいておりますが、電子図書館は、2週間で自動的に返却になり、返し忘れたという心配がありませんので気軽にご利用ください。予約も、お1人2点までとなっています。図書館に来館しなくても本を読むことができ、24時間ご利用いただけます。ご自宅や出先でもインターネットに繋げるデバイスがあればお使いいただけます。また、電子書籍は様々な機能があり、スマートフォンやパソ

コン画面でテキスト文章や画像をお読みいただいたり、文字のサイズをその場で変更したり、一部のコンテンツには音声の読み上げ機能が付いております。

もう一つ、図書館で今一番推しているのが電子の雑誌です。電子の雑誌は図書と違って、先ほどの貸出点数1点の中に含まれません。アクセスしている期間は読めますので、気軽にお使いください。こちらには全250タイトルと書いてありますが、現在は280ほどに増えています。そのうち300タイトルを超える予定です。電子雑誌については、バックナンバーも著作権があるため、全てのバックナンバーが読めるわけではなく、雑誌によって5年間分や2年間分等、読める期間は異なります。最新号だけは、著作権の問題があり、出版社や著作権者の意向でご自宅では読めないため、目黒区立図書館8館のいずれかに来ていただき、アクセスして、読む形になります。

参加者：利用できるのは、目黒区在住となっていますが、在住というのは、住民票がある方ですか？

図書館：貸出券の登録をしていただくのが前提で、目黒区在住で登録されている方だけです。住民票ではなく登録されたときに確認した本人確認書類の住所に基づいています。例えば世田谷区の住所で登録されている場合は、目黒区の電子図書館は使えません。

図書館：他の自治体でもほぼ電子図書館を開いており、この城南地区と言われる世田谷区、大田区、品川区、渋谷区、全て電子図書館がありますが、貸出期間が2週間、貸出点数は2点で概ね同じような条件です。若干違う自治体もあるかもしれませんが、他区にお住まいの方は、直接お住まいの自治体の図書館にお問い合わせください。

図書館：次に、図書館で開催しているイベントにつきまして、ご紹介いたします。本に親しむきっかけや来館のきっかけになるようなイベントを企画し、めぐろ区報でお知らせをすることで、普段図書館を利用しなかった方にも来ていただけるきっかけになることもあります。おはなし会は、各館で水曜日の午後に開催することが多いですが、大橋図書館と洗足図書館では月1回、土曜日に開催しています。もしお近くに図書館がありましたらぜひご参加ください。おはなし会はお子さん向けですが、八雲中央図書館では、毎月第4土曜日に開催している「ちょっと大人のおはなし会」で、お子さん向けのおはなし会では読めないような、長めのお話や内容の難しい本、スタッフが読んでみたいと思っている本の紹介をしています。また、子どもの読書週間には、中学生向けの職場体験をアレンジした1日図書館員体験を実施しています。さらに子ども向けには、夏休みの宿題の参考にしていただけるような企画や、中目黒GTプラザホールを使って、完全に閉め切って真っ暗にして提灯を持って、夏の怖いお話を聞いていただくようなことも企画しました。

思わぬ本との出会いを目的とした、「皆様の推し本を教えてください」という企画では、他の利用者がどんな本を読んでいるのかを見ていただき読書の幅を広げるきっかけにさせていただいたり、また「本の玉手箱」という企画は、中身が見えない状態で選んでいただくことで、意外な出会いがあったりしたら嬉しいという思いで実施しています。

大人の工作会は、図書館で不要になってしまった本の中で、表紙などが綺麗な本を使いブックカバーを作りました。本に親しみながら大切にしていこうというような意図も含まれています。

こういったイベントにつきましては、めぐろ区報や図書館のウェブサイトですぐ周知し

ていますので、よろしければご参加ください。

図書館：本日は皆様、本当にありがとうございました。皆様のご質問や、ご要望を全部聞き取れなかった部分もあるかもしれません。

聞き取れなかったことやご要望につきましては、お手元のアンケートに記載をお願いいたします。記載していただいたご質問等については、この場でお答えすることができませんので、後日、図書館ウェブサイトにて、Q&Aという形で、今日の記録とともに掲載させていただきますのでご確認ください。バックヤードツアーについては、今年度はこの1回だけとなっております。日程は未定ですが、下半期に利用者懇談会の開催を予定しております。また区報でお知らせいたしますので、機会がありましたら、ご参加ください。

4 閉会（八雲中央図書館長挨拶）

図書館長：皆様、様々なご意見、ご質問等ありがとうございました。

図書館の本は本屋さんで本を購入するのと違って、ひと手間入った上で、皆様に借りていただくところがあり、そういったプロの技を今日非常に興味深くご覧いただけてよかったですと思います。読書というのは、生涯学習の一分野ということで、区といたしましても、小さい頃から読書に親しむという習慣を身につけていただくことで、生涯にわたって自発的に学ぶ姿勢を身につけていただくことも、重要な取り組むべきことだと考えているところです。目黒区は面積に比べて、現在図書館が8館あるというのは他自治体と比べても充実していますので、ご活用いただけたらと思います。今後とも、こういったイベント等も随時実施してまいりますので、ぜひご参加ください。本日は誠にありがとうございました。

以 上